

## 1、概要

### （1）調査の目的

本調査は、埼玉県内の公立小学校4年生から中学校3年生までの児童生徒を対象に、学力や学習状況を把握・分析し、教育施策や指導の改善に役立てることを目的とした調査です。「学習したことがしっかりと身に付いているか」という従来の調査の視点に、「児童生徒一人一人の学力がどれだけ伸びているのか」という視点を加えています。「学力の伸び」を測ることができる「教科に関する調査」、学習に対する意欲や学習方法、さらに家庭での生活習慣等に関する「質問紙調査」のほかに、各学校や各教育委員会の取組についての「質問紙調査」も実施しています。

「学力の伸び」は、子供たちの1年間の学習成果であるとともに、学校や教育委員会の取組の成果でもあります。本調査で示す、子供の「学力の伸び」と「学校や教育委員会の取組の変化」の関係を検証することで、今まで以上に取組の効果を確かめることができると考えています。昨年度同様、タブレット端末等を活用した調査（CBT=Computer Based Testing：タブレット端末等を使用した調査）が県内全域で実施されました。紙で実施してきた調査以上に児童の学びの状況を詳細に把握できるため、教師の指導方法の工夫・改善につなげていきたいと考えています。

### （2）実施日・実施内容

- 令和7年5月13日（火）～15日（木）
- 県内の公立小・中学校（さいたま市を除く）の小学校第4学年から中学校第3学年の全児童生徒
- 教科に関する調査 国語、算数 出題数は各学年26～40題（問題形式は選択肢・短答・記述）
- 質問紙調査 学習意欲、学習方法及び生活習慣等に関する事項

## 2、実施教科における本校の学力の伸びの状況

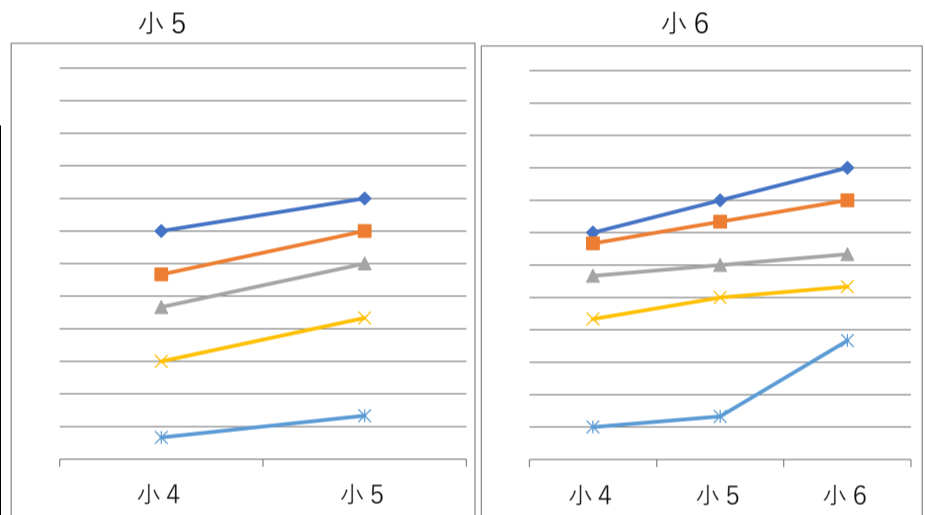
### （1）国語

埼玉県の平均

埼玉県の平均より下

※4年生は今年度が最初なので伸びの状況はありません

		学力を伸ばした児童生徒の割合 (%)	学力が伸びなかった児童生徒の割合 (%)	学力の伸び率 (R7学力レベルとR6学力レベルの差の平均)
5年国語	埼玉県	80.4	19.6	3.0
	南小学校	<b>81.8</b>	<b>18.2</b>	<b>3.0</b>
6年国語	埼玉県	66.3	33.7	2.0
	南小学校	<b>75.3</b>	<b>24.7</b>	<b>2.0</b>



- ◆ ⇒ 最大値(最も学力が高い児童・生徒が属する学力レベル)
- ⇒ 75%値(学力の高い順に並べたときに、上から数えて25%にあたる児童・生徒が属する学力レベル)
- ▲ ⇒ 中央値(学力の高い順に並べたときに、上から数えて50%にあたる児童・生徒が属する学力レベル)
- × ⇒ 25%値(学力の高い順に並べたときに、上から数えて75%にあたる児童・生徒が属する学力レベル)
- \* ⇒ 最小値(最も学力が低い児童・生徒が属する学力レベル)

### 国語結果（分析）

**4年生**（平均正答率は、狭山市・埼玉県よりやや高く、学力レベルは埼玉県と同レベルである。）

- ・正答率で県平均より高かった問題は、30問中16問であった。
- ・「熟語を正しく読み、音読みか訓読みかを選択する」問題、「国語辞典に載っていた複数の意味のうち、文脈に即したものを選択する」問題では、県平均より10%近くよい正答率となっていた。これは、日常からの読書の習慣や、授業での丁寧な指導により理解を深められたことが考えられる。正答率が低かった問題は「国語辞典に出てくる順に言葉を並び替える」（正答率5.4%）「国語辞典で調べられるように、動詞を言い切りの形で入力する」（正答率6.8%）「被修飾語を選択する」（正答率9.5%）で、県平均より10%～20%下回る正答率であった。難易度の高い問題の正答率が低い傾向にあった。「修飾語」と「被修飾語」の概念が曖昧、文の構造が理解できていない、「言い切り」の意味が分かっていないこと等が考えられる。国語辞典を活用する場面を増やしていきたい。修飾語を使った文を作る活動や読解力を向上させる授業の展開を図ることが大切である。

**5年生**（平均正答率は、狭山市・埼玉県より高かった。学力の伸び率は、狭山市・埼玉県とほぼ同じであった。）

- ・正答率で県平均より高かった問題は、31問中15問であった。
- ・正答率が特に高かった問題は、「文章中の記述を具体的に説明した文の空欄に当てはまる言葉を抜き出して入力する」や「敬体・常体の不統一を直し、より良い表現に直して入力する」などの問題で、県平均より10%以上の正答率であった。敬体・常体の統一を意識した作文や、教科書や本を読み込む習慣がついていると考えられる。正答率が低かった問題は、「前後の関係から、段落の順番を並び替える」で、正答率7.6%、県平均より10%以上下回っていた。文脈を理解する能力、思考力、文章構成力の不足が考えられる。文章構成パターンを理解させるとともに、文頭・文末に着目して読ませる習慣を身に付けさせたい。
- ・中間層以上の伸びが大きかった要因としては、児童の僅かな伸びを認め称賛することにより、児童の自己肯定感が高まったことが考えられる。（自己肯定感に関する質問は県より10%以上高かった。）今後はグループ・ペア学習の機会を増やすことで、話す・聞く力を高めるとともに、読書の機会を増やすことで読む力を高めていく。

**6年生**（平均正答率は、狭山市・埼玉県より高く、学力レベルは狭山市・埼玉県より高い。）

- ・正答率で県平均より高かった問題は、31問中22問であった。
- ・正答率が高かった問題は、「文中の空欄に当てはまる適切な呼称の副詞を選択する」問題や「文章の構造を説明しているものを選択する」などの問題で、県平均より10%近く上回った。課題であった読むこと、書くことに力を入れた授業が結果に繋がった。文章の流れを意識して読むことができるようになってきている。
- ・正答率が低かった問題は、「被修飾語を選択する」や「登場人物の心情の説明として適切なものを選択する」などの問題で、県平均より約5%下回った。「修飾語」と「被修飾語」の概念が曖昧であったことが考えられる。日常の読書の冊数が少ない（全国・県学調質問紙の結果から）ことも課題である。
- ・低位層が大きく伸びた要因としては、児童の苦手意識を聞き取りながら、個別に丁寧な対応を継続して行ったことが考えられる。

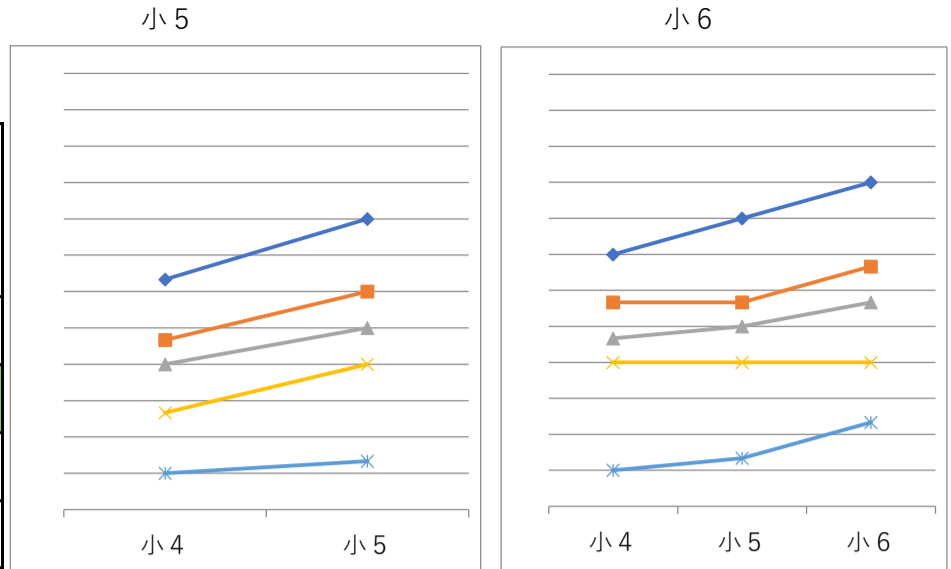
## (2) 算数

埼玉県の平均

埼玉県の平均より下

※4年生は今年度が最初なので伸びの状況はありません

		学力を伸ばした児童生徒の割合 (%)	学力が伸びなかった児童生徒の割合 (%)	学力の伸び率 (R5学力レベルとR4学力レベルの差の平均)
5年算数	埼玉県	69.6	30.4	2.0
	南小学校	<b>81.8</b>	<b>18.2</b>	<b>3.0</b>
6年算数	埼玉県	68.3	31.7	2.0
	南小学校	<b>66.2</b>	<b>33.8</b>	<b>2.0</b>



### 算数結果 (分析)

**4年生** (平均正答率は、狭山市・埼玉県よりやや低かった。学力レベルは狭山市・埼玉県よりやや低かった。)

- ・正答率で県平均より高かった問題は、31問中5問であった。
- ・正答率が高かった問題は、「折り紙に折り目をつけた後、切って開いたときに出来上がる図形を選ぶ」問題や「角の大きさが大きい順に並べ替える」問題であった。図やイラストなど視覚教材を使った指導が効果的であった。「小数をいくつ集めた数かを選ぶ」問題は正答率が県平均より20%低かった。これは概念の理解不足、計算方法の習熟不足などが考えられる。小数の意味をしっかりと理解させたい。「数直線の目盛りが表す長さとして適切なものを選ぶ」は正答率5.4%となった。目盛りの読み違いや1目盛りがいくつかを読み取れないことが考えられる。数直線の基本概念を理解させたい。

**5年生** (平均正答率は狭山市・埼玉県より高かった。伸び率は4B→5Bへ、3段階向上)

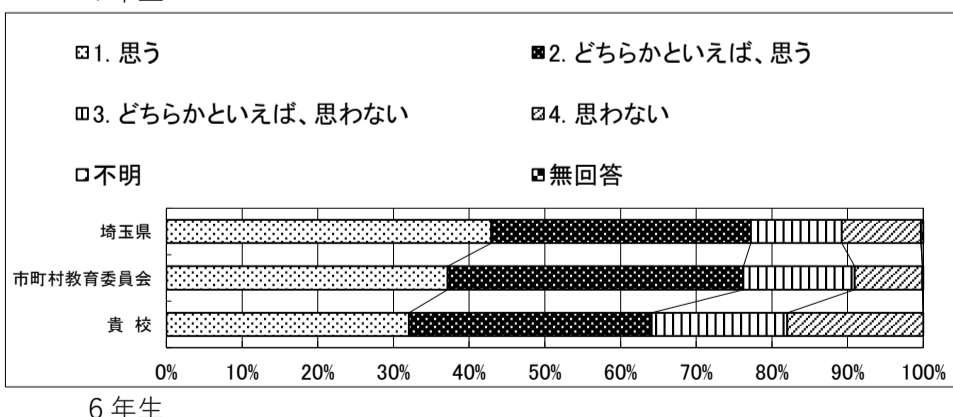
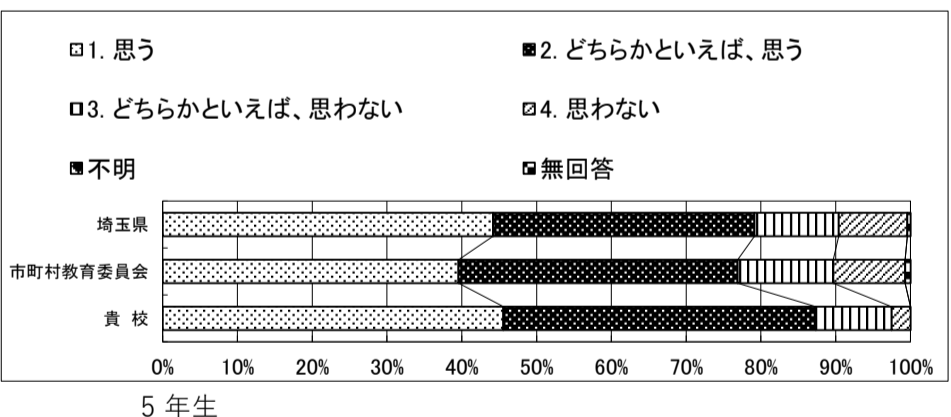
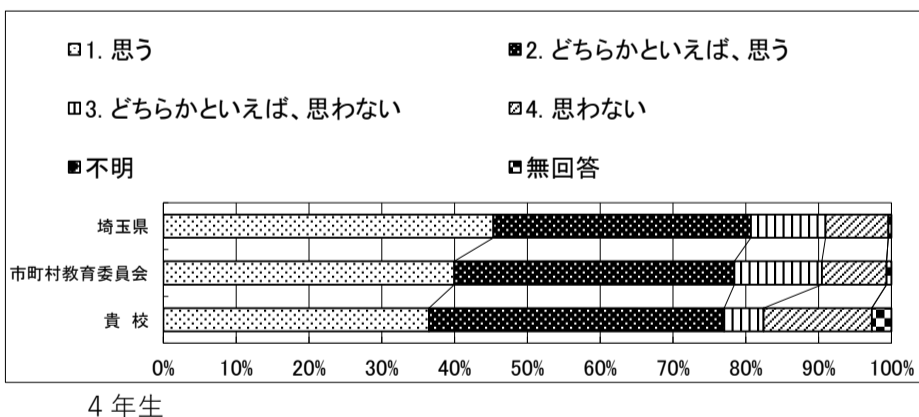
- ・正答率で県平均より高かった問題は、32問中21問であった。平均正答率が埼玉県より10%下回る問題はなかった。
- ・正答率が高かった問題は、「割合から値上げが大きいほうを選ぶ」問題で、県平均より20%高かった。「正三角形のタイルを貼ってできる図形について、タイルを貼る作業の回数と図形の周りの長さの関係を△と□の式で表す」問題、「表からある事柄に該当する数値を読み取る」問題などが県平均より10%以上であった。正答率が低かった問題は、「ある単位で表された面積を、異なる単位で表すときの正しい数値を選ぶ」(正答率7.6%)。「2人が公園に向かうとき、遅れて出発した人が公園に着くまでに、先に出発した人に追いつくことができない理由を完成させる」(正答率0%)であった。いずれも難易度の高い問題で無回答率も高かった。単位変換を苦手と感じている児童は多く、単位の関係について理解を深めていくことが必要である。正答0%の問題については、他の「変化と関係」の正答率が高かったことを考えると、難易度が最も高い問題に加え、最終問題であったため、諦めてしまった児童、時間が足りなくなってしまった児童が多かったのではないかと考える。

**6年生** (平均正答率は共に狭山市・埼玉県より高かった。)

- ・正答率で県平均より高かった問題は、33問中24問であった。学力レベルは県・市平均より高かった。
- ・正答率が高かった問題は、「2つの帯グラフを比較してわかることを選ぶ」問題で県平均より17%高かった。「与えられた辺の長さと角の大きさの中で、合同な三角形をかくことができるものを選ぶ」問題や「小数の10倍の数と1/10の数を選ぶ」問題で約10%以上。どの領域においてもバランスよく学力を向上させたことが分かる。記述式の問題が県の平均を下回っていることや、問題の後半になるにつれ無回答率が高くなっていることから、ある程度の問題数を限られた時間で処理していく練習が必要であると考える。

## 3、児童質問紙調査より

### 質問 「自分には、よいところがあると思いますか」



※5年生は、「自分にはよいところがあると思う」と答えた児童が、埼玉県の平均を上回った。しかし、4・6年生においては県・市の平均よりも下回る形となった。家庭や学校でも「認めてもらえる」「やればできる」といった自己肯定感を高めることが課題だといえる。児童一人一人が自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していけるような学級活動の研究を続けていく。今年度は昨年度までの研究で学んだことを土台に学力の向上を図っていく。児童が自分の考えを持ち、生き生きと発言し、友達と協働しながらこれからの時代を生き抜く力をつけていけるように指導する。

## 4、総括

- ①引き続き45分間の授業を大切に、課題を明示して学習への児童の興味関心が高まるようにしていきます。
- ②どの子にも「わかる、できる」授業の工夫改善に今後も努めていきます。また、児童に、やればできるという自信が持てるように励ましていきます。
- ③今年度の課題を生かした学習に取り組み、最後まであきらめずに問題を解決する態度と能力を育てます。
- ④日々の根気強い取り組みを通し、漢字・計算の習得率を上げます。
- ⑤ゲームやスマホ、インターネット等の使用時間を見直していただき、家庭学習や読書の時間が十分確保できるようにご協力をお願いします。